

豊田市上下水道局における熱中症対策に資する現場管理費補正の試行要領

(目的)

第1条 近年では地球規模の気温上昇等に伴い、熱中症の患者が増加傾向にある。国においては、令和元年5月22日付国官技第35号国土交通大臣官房技術調査課長通知「熱中症対策に資する現場管理費の補正の試行について」により、建設工事現場における熱中症対策に要する費用を現場管理費として計上することで、建設現場における労働環境の改善に取り組んでいる。

本市においても建設業界の将来の担い手確保が重要な課題となっており、建設現場における労働環境の改善が求められていることから、熱中症対策に資する現場管理費補正の試行に取り組むこととする。

(用語の定義)

第2条 本要領における用語を次のとおり定義する。

- (1) 真夏日とは、日最高気温が30度以上の日をいう。ただし、夜間工事の場合は、作業時間帯の最高気温が30度以上の場合とする。
- (2) 工事期間とは、工事の始期から工事の終期までの期間で、準備期間、施工に必要な実日数、不稼働日、後片付け期間の合計をいう。なお、年末年始6日間、夏季休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。
- (3) 真夏日率とは、以下の式により算出された率をいう。

$$\text{真夏日率} = \text{工事期間中の真夏日} \div \text{工事期間}$$

(対象工事)

第3条 豊田市上下水道局の発注工事で、以下の各号のすべてに該当する工事とする。

- (1) 設計書の単価適用日が令和7年4月1日以降の工事
- (2) 主たる工種が、屋外作業であること。
- (3) 現場作業日数が30日以上あること。

(取組内容)

第4条 本要領に基づく試行工事の取組内容は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 発注者は、熱中症対策に資する現場管理費補正の試行対象工事であることを、工事の特記仕様書に明記する。
- (2) 対象工事の受注者は、工事の着手前に提出する「施工計画書」に、工事期間中における気温の計測方法及び計測結果の報告方法を記載し、対象工事の監督員にその内容の承諾を受ける。
- (3) 対象工事の受注者は、工事期間内における真夏日の発生日数を確認できる資料を、別紙-1を参考に作成する。

- (4) 対象工事の受注者は、対象工事の監督員が最終変更設計書の作成開始時までに工事期間中の真夏日発生日数が分かる資料を提出する。最終設計変更設計書の作成開始時については監督員との協議とし、これ以降の真夏日の発生日数は考慮しない。
- (5) 対象工事の監督員は、提出された資料を確認し、現場管理費率（熱中症対策補正含む）を第5条により算出し、設計変更を行うものとする。

（積算方法等）

第5条 対象工事の監督員は、以下により現場管理費の補正を行うものとする。

(1) 補正方法

現場管理費の補正は、工事期間中の最高気温の状況に応じて、別紙—2を参考に補正値を算出し、現場管理費率に加算する。

$$\text{熱中症対策補正値（％）} = \text{真夏日率} \times \text{補正係数} ※$$

※補正係数：1. 2

$$\begin{aligned} & \text{現場管理費率（熱中症対策補正含む）} \\ & = \text{（現場管理費率} \times \text{施工地域を考慮した補正係数）} + \text{補正値} \\ & \quad + \text{熱中症対策補正値} \end{aligned}$$

(2) 補正時期

現場管理費の補正は、最終変更契約において行うものとする。

(3) 施工箇所点在型への適用

施工箇所点在型工事については、点在する箇所ごとに補正を行うものとする。

（気温の計測方法）

第6条 気温は、施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の測定値を用いることを標準とする。

2 第1項によらず環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT）を別紙—3を参考に用いることもできることとするが、その場合、WBGTが25℃以上となる日を真夏日と見なす。

3 第1項及び第2項により難しい場合は、施工現場を代表する1地点で気象庁の気温計測方法に準拠した方法により得られた計測結果を用いることができるものとする。なお、計測に要する費用は受注者の負担とするものとする。

（その他）

第7条 この要領に定めのない事項、又はこの要領の規定により難しい事項については、発注者が必要に応じて別に定めるものとする。

附 則

この要領は、令和7年4月1日から施行する。

熱中症対策費を補正する場合の提出資料（任意様式）の作成方法

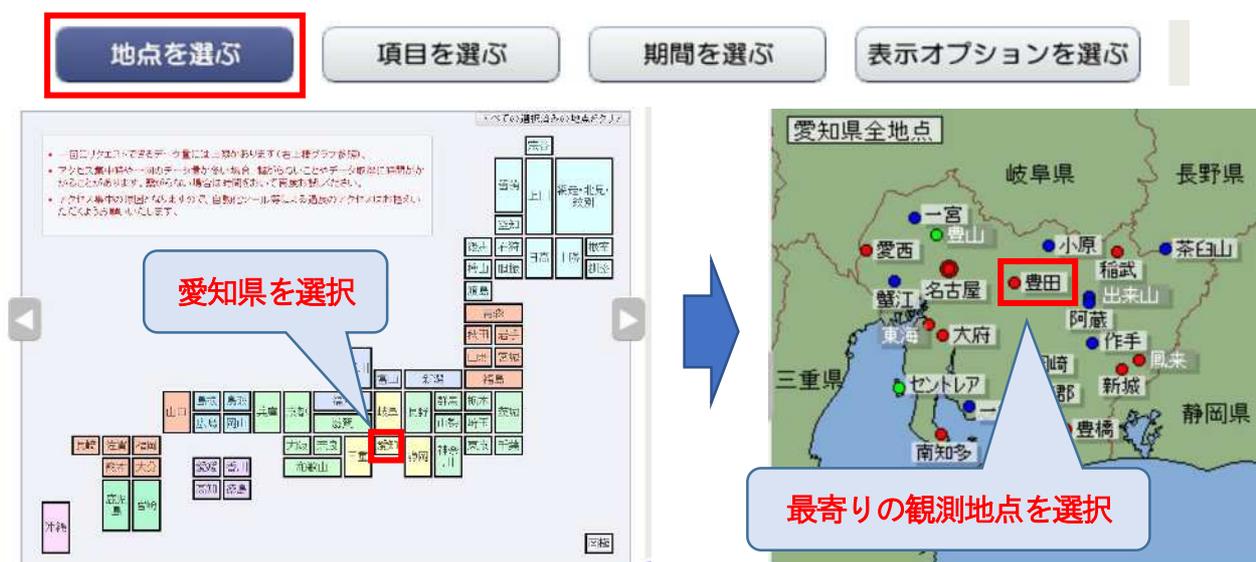
工事期間内における真夏日の発生日数を確認できる資料を作成する。

記載方法例（気温）

気象庁観測地点における日最高気温の取得方法の一例を示す。

① 気象庁のWebにアクセス <https://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/obsdl/index.php>

② 地点を選ぶ 画面で、施工現場の最寄りの観測地点を選択する。



③ 項目を選ぶ 画面で日別値、日最高気温を選択。



④ 期間を選ぶ 画面で工事期間を指定。

地点を選ぶ 項目を選ぶ **期間を選ぶ** 表示オプションを選ぶ

期間

連続した期間で表示する

最近1年 最近1か月

2024年 5月 1日から

2024年 11月 21日までの日別値を表示

特定の期間を複数年分、表示する

月 日から 月 日の値を

年から 年まで表示

⑤ CSV ファイルをダウンロード からエクセル出力

地点を選ぶ 項目を選ぶ 期間を選ぶ 表示オプションを選ぶ

画面に表示 ▶

CSVファイルをダウンロード ▶

選択地点・項目をクリア

選択された地点 観測項目

豊田

選択された項目

日最高気温

⑥ ダウンロードしたエクセルから真夏日の日数を算出

記載例		
年月日	豊田 最高気温(°C)	
4		
5		
6		
7	2024/5/1	19.4
8	2024/5/2	21.2
9	2024/5/3	25.6
101	2024/8/3	37.5
102	2024/8/4	39.1
103	2024/8/5	38.8
104	2024/8/6	36.7
209	2024/11/19	15.6
210	2024/11/20	13.1
211	2024/11/21	18.7
212		
213	工事期間	真夏日(30°C以上) 数
214	202	97
215		

<真夏日とは>

日最高気温が30°C以上の日をいう。ただし、夜間工事の場合は、作業時間帯の最高気温が30°C以上の場合とする。

夏季休暇3日間は工事期間と真夏日から除く。

最終変更設計書の作成開始時に判定する。

工事の始期から工事の終期までの工事期間と、最終変更設計書の作成開始時までの真夏日の日数合計を明記して監督員に提出する。

工事期間に年末年始6日間、夏季休暇3日間、工場製作工を含む工事で工場製作のみを実施している期間、工事の全部中止している期間は含まない。

現場管理費率（熱中症対策補正含む）の算出方法

熱中症対策補正值の算出方法

記載例	3		豊田		
	4	年月日	最高気温(°C)		
	5				
	6				
	208	2024/11/18	19.3		
	209	2024/11/19	15.6		
210	2024/11/20	13.1			
211	2024/11/21	18.7			
212					
213	工事期間	真夏日(30°C以上) 数			
214	202	97			
215					

$$\text{熱中症対策補正值 (\%)} = \frac{\text{工事期間の真夏日数}}{\text{工事期間}} \times 1.2 \text{ (補正係数)}$$

工事期間

工事の始期から工事の終期までの期間で、準備期間、施工に必要な実日数、不稼働日、後片付け期間の合計をいう。

なお、年末年始 6 日間、夏季休暇 3 日間、工場製作工を含む工事で、工場製作のみを実施している期間、工事の全部中止している期間は含まない。

現場管理費率（熱中症対策補正含む）

$$= (\text{現場管理費率} \times \text{施工地域を考慮した補正係数}) + \text{補正值} + \text{熱中症対策補正值}$$

※熱中症対策補正值は、小数点以下 3 位を四捨五入し 2 位止めとする。

真夏の判断に暑さ指数（WBGT）※を用いる場合

気象庁の地上気象観測所の気温に変え、暑さ指数（WBGT）を用いる場合は、環境省が公表している観測地点の暑さ指数を用いることを標準とする。

また、その場合は暑さ指数が25℃以上となる日を真夏日と見なす。

※暑さ指数（WBGT（湿球黒球温度）Wet Bulb Glob Temperature）

熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標。単位は気温と同じ摂氏度（℃）で示されるが、その値は気温とは異なる。暑さ指数（WBGT）は人体と外気との熱のやり取り（熱収支）に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響が大きい①湿度、②日射・輻射（ふくしゃ）など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標である。

環境省が公表している観測地点



過去データも検索可能

暑さ指数（WBGT）の実況値



環境省熱中症予防情報サイトより

(http://www.wbgt.env.go.jp/record_data.php)